

正解（3）

気温が高いと、コンクリート打込み時の温度が高くなり、所要単位水量の増加、輸送中のスランプ低下、打込み後の過早な凝結、水和熱による温度上昇の増加、材齢 28 日およびそれ以後における強度の減小などの不利な結果を生じる。したがって、暑中コンクリートでは、コンクリートの温度が打込み時および打込み直後においてできるだけ低くなるように特別の配慮が必要である。

暑中環境における打込みでは、水分の蒸発によりコンクリートの凝結が急速に進み、通常のコンクリートに比べてコールドジョイントが生じやすくなる。このため、1 回の打込み量、打込み区画および打込み順序を考慮した打込み計画をたて、これに基づいて迅速に施工を行う。